

非水ガラス系セメントミルク凝結硬化促進剤

サンコーハードAQ シリーズ

普通セメント4袋

特徴

- 非水ガラス系セメントミルクグラウト剤のため、恒久的強度を必要とする地盤安定強化、湧水防止等に有効です。
- 一般のセメントミルクと比較するとブリージングは殆どありません。
- ゲル化後の初期強度発現は良好です。
- セメント鉱物系組成物ではありませんので、それ自体水と反応して硬化する事はなく、取り扱いが簡単です。

配合表

銘柄	A液(2000)			B液(2000)	
	普通セメント	促進剤	水	硬化剤	水
AQ2-5秒	100kg	1.6kg	16.1L	20.8kg	19.7L
AQ2-10秒		1.2kg	16.3L	2.4kg	19.6L
AQ-1分		1.2kg	16.3L	2.4kg	19.6L

取り扱い上の注意

- ① サンコーハードAQシリーズは硬化剤、促進剤共にアルカリ性ですので、耐アルカリ性手袋、保護メガネ、保護マスク、液がしみ込まない保護着衣、ゴム長靴等を着用し、衣服や身体に触れないようにして下さい。特に目等の粘膜面への付着、袖口、首筋、靴の中には十分注意して下さい。取り扱い後は、手洗い、うがい、洗顔を十分行って下さい。
<応急処置>
 - ・目に入った場合は、多量の水で15分以上洗浄しできるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
 - ・誤って飲み込んだ場合は、口の中をよく洗浄しコップ1~2杯の水または牛乳を飲ませて下さい。その際無理に吐かせないで下さい。その後直ちに医師の診察を受けて下さい。
 - ・皮膚に付着した場合は、直ぐに多量の水で、ぬめりが完全に取れるまで洗浄して下さい。異常を感じた場合は直ちに医師の診察を受けて下さい。
- ② サンコーハードAQシリーズの保管、貯蔵に当たりましては、高温多湿とならない場所に保管して下さい。また、水濡れしないように保管して下さい。

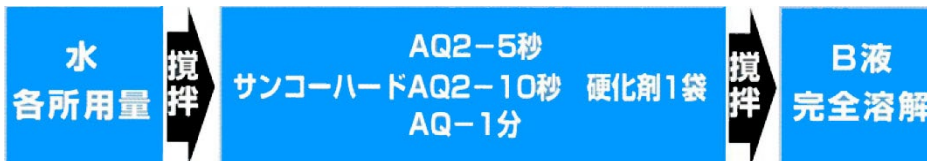
調合方法

[A液]



- ① 所用量の水を張り、攪拌しながら促進剤を投入して十分に分散させます。
- ② 更に攪拌しながら所用量のセメントを投入して、均一に分散させA液を調合します。
- ③ A液は沈降しやすいので、調合後も攪拌機は停止しないで下さい。

[B液]



- ① 所用量の水を張り、攪拌しながら硬化剤を徐々に投入し完全溶解します。
- ② B液の場合は、攪拌機を停止してもかまいません。

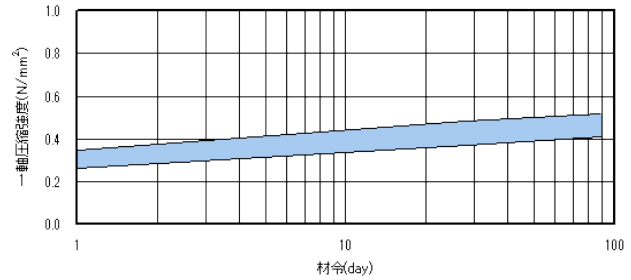
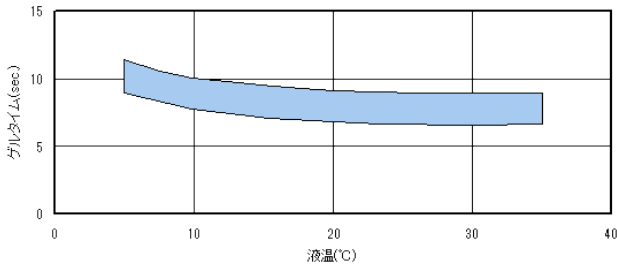
サンコーハードAQシリーズは皮膚に触れると刺激性があり放置するとアルカリにより冒されます。取扱い上の注意を守れないと、個人差、付着箇所により違いはありますが、
・皮膚炎を起し激痛を伴う。
・重度の熱傷を起こす。
などの症状を引き起こします。十分に注意して下さい。

性能

AQ2-5秒 (荷姿 硬化剤:20.8kgビニール袋入り、促進剤:16kg ビニール袋入り)

ゲルタイム (液温 20℃ : 7~9 秒)

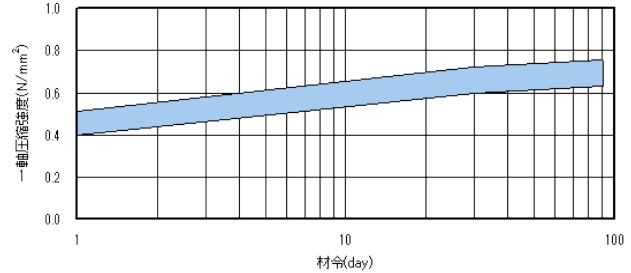
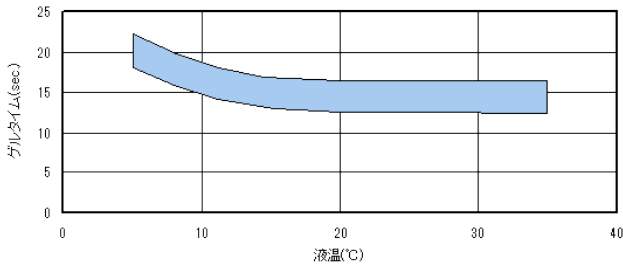
一軸圧縮強度 (28日後 : 約 0.4 (N/mm²))



AQ2-10秒 (荷姿 硬化剤:24kgビニール袋入り、促進剤:12kg ビニール袋入り)

ゲルタイム (液温 20℃ : 13~16 秒)

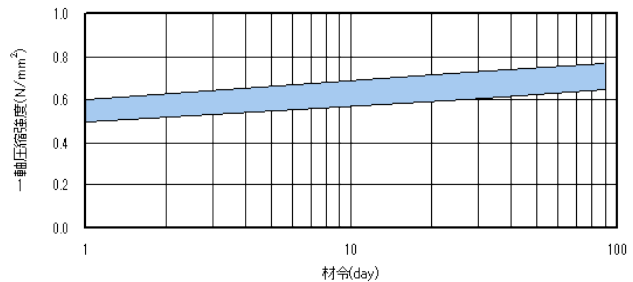
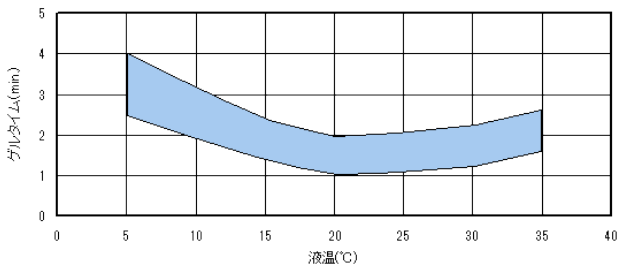
一軸圧縮強度 (28日後 : 約 0.7 (N/mm²))



AQ-1分 (荷姿 硬化剤:24kgビニール袋入り、促進剤:12kg ビニール袋入り)

ゲルタイム (液温 20℃ : 1分~2分)

一軸圧縮強度 (28日後 : 約 0.7 (N/mm²))



溶解上の注意

- ① 硬化剤の投入 : 一度に投入すると大きな塊となり溶解しにくくなる場合があります。
- ② 水 量 : 水はやや少な目に張り、最後に 200Lにして下さい。ただし、B液中の硬化剤は少量の水では完全に溶解しない場合があります。
- ③ 水 温 : 硬化剤の溶解は5℃以上の水を使用して下さい。また、水温が35℃を越えるような場合は、正常なゲルタイムが得られない場合があります。
- ④ 凍 結 : 冬期、長時間低温の外気に曝され0℃付近にB液が低下すると、溶解槽或いは貯蔵槽内で凍結する場合がありますが、その場合には加熱溶解して下さい。性能には変化ありません。

注入上の注意

- ① ストレーナー : 注入液に異物の混入を避けるため、溶解槽或いは貯蔵槽の出口にはなるべくストレーナーを装着して下さい。
- ② 練り置き時間 : 性能にはあまり影響ありませんが調査後はなるべく1時間以内に使用して下さい。
- ③ 凍 結 防 止 : 冬期2重管内でB液が凍結することがあります。2重管が冷えている場合は温水を通して暖めて下さい。また、地表上の露出部を保温剤で覆うなど、凍結防止に注意を払って下さい。内管にB液を通した方が凍結防止には有効です。

